



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月～3月)

個人／3,000円以上

法人／10,000円以上

OEJABから要人三名来日

友愛との協力体制について協議

広島市訪問・松井一實市長と面談・慰霊碑に献花など平和活動

二〇二二年九月二十二日から十月三日までの十二日間に亘り、姉妹団体OEJABから二名の要人が来日された。

OEJABと友愛の今後の協力について協議する一方、広島を訪問し平和記念公園で慰霊碑に献花するなど平和活動を実践、その他鳩山会館訪問、大相撲見学、京都訪問など日本文化に触れるなど積極的な活動を展開した。(OEJAB来日についての全ての写真は、友愛HPでご覧いただけます)

二〇二二年九月二十二日(木)から十月三日(月)までの十二日間に亘り、姉妹団体OEJABから二名の要人が来日され、今後の友愛との協力についての話し合いがもたれた。

来日されたのは、ディーター・フレリッヒさん(OEJAB第二経営責任者)と、ゲオルグ・ガークさん



写真上／友愛とOEJABの今後について、活発な議論が行われた。右側奥から、ゲオルグ・ガークさん、ディーター・フレリッヒさん、河口・ハルトマン・ミヒヤエラさん(通訳) 皆真剣な表情で写真上／全員揃って記念撮影



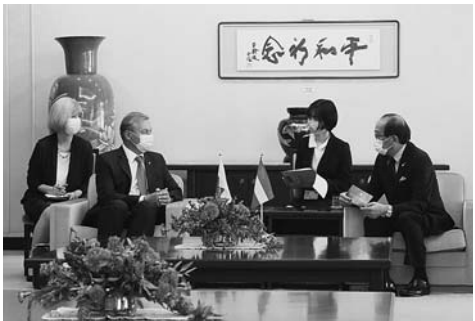
鳩山由紀夫理事長の説明で鳩山会館を見学。全てに素晴らしい歴史について、熱心に見学していた



暖かい陽さしの広がる鳩山会館庭園で記念撮影。庭の池の鯉、ロシアから贈られた一郎先生の銅像など、興味は尽きない様子だった



広島市のご協力を得て、松井一實市長との面談が叶った。友愛からは、西川伸起理事・田中正基評議員・木本康瑛さん(友愛ユニオンメンバー)が同席させて頂いた



松井広島市長から平和活動についてお話を伺った。平和の大切さを知るオーストリアの国民も同様に思っていますと真摯に答えていた



平和記念公園で、慰霊碑に花輪を捧げた。花輪にはOEJABのロゴマークを入れ、二人はOEJAB全員の思いを代表して献花



おれにと遠くウィーンから持ってきてくださった額を拝受した井上和子理事(左)と鳩山由紀夫理事長。実際の写真はHPでどうぞ



森本真治参議院議員・青山人衆議院議員のお力添えで、国会議事堂など見学。友愛会員牧義夫衆議院議員も駆けつけてくださった



帰国の日、鳩山由紀夫理事長に、滞在の感想とお礼を。写真右から、鳩山理事長、フレリッヒさん・ガークさん、西川理事・芳賀理事



京都宇治平等院にて 同行してくださった田中正基さん(左端)戸澤英典さん(左から二人目)と一緒に。とても熱心に見学された

友愛時評

▼五年に一度の重要な政治イベントである中国共産党大会が一〇月二二日に開幕した。二〇一八年に「二期一〇年」の任期を撤廃する憲法改正が公表された頃から習近平総書記の権力強化は明らかだったが、胡錦濤前総書記の退席のシーンや李克強総理の退任は驚愕であった。中国共産主義青年団(共青团)出身者を排除し、独裁体制が完成した観もある習近平体制はどこに向かうのか。不安な思いとともに注視している。▼とりわけ台湾問題である。ロシアのウクライナ侵攻が中国の台湾侵攻を誘発するというシナリオは、苦戦するロシアに中国が距離を置いていることから、ひとまず遠ざかったようである。しかし「中華民族の偉大な復興」を自らの任期中に成し遂げようという習近平の意志もますます強まっているように見える。必ずしも軍事侵攻とは限らないが、中国共産党の悲願である「台湾統一」の時期と方法を慎重に探っていると見るべきだろう。▼独裁者が時に常人には思いもよらない行動を取ることは歴史が証明している。ヒトラーの『我が闘争』は広く読まれていたが、同時代の多くの人は「伍長上りの戯言」を真剣に捉えず、ホロコーストや戦争として現実となるとは想像すらしていなかった。▼文化大革命により要職にあった父・習仲勳が投獄され、自らも下放され正式な教育の機会を奪われ辛苦した習近平が毛沢東を崇拜する――この逆説を「虐待された父を追う毛沢東チルドレン」とする分析に得心しつつ、その帰結の不気味さに背筋が寒くなる。(ヒゲ)

2022年度OEJAB派遣員からのレポート

見て・聞いて・考えて・味わった日々を写真と共に報告します！

＊写真は紙面の都合で一部のみ掲載しております。友愛HPには、派遣員からの報告写真を 全て掲載しており、カラーでご覧いただけます。 <https://yuai-love.com>



2022年度派遣第一陣のみなさん 左から 鈴木健太さん・手塚七彩さん・西川伸起理事・館宏輔さん・浦彩人さん・計良衛さん

築きあげること

東北大学四年 館 宏輔

オーストリア最大の公益団体であり、友愛の姉妹団体であるOEJABへの派遣が三年ぶりに実現した。

以前からOEJABの難民の現状や受け入れ事業については耳にしていたものの、机上の空論で終わっていた。百聞は一見に如かずではないが、やはり実際に現場を訪れてこそ気付くことは非常に多数あり、実りある訪問となった。

昨今の世界情勢が不安定な時期に、派遣を実現してくださったこと、本当に感謝しております。

まず我々はOEJABの難民施設を訪れた。ここには以前からシリアやアフガニスタンの難民が集う他に、ウクライナからの難民の方々も約五〇名暮らしていた。実際にウクライナからの難民の方々と食卓を囲みながら現地の現状や心理状態について伺う機会をいただいたのだが、印象的な



OEJABの職業教育学校で、ガラスの製造工程を見学。実際に製造体験をさせていただいた。結構難しい技術のいる仕事である



言葉は「可能であれば母国へ帰り家族と一緒に暮らしたい」。時折素敵な笑顔をみせながら語ってくれたのだが、どこか目の奥は笑っておらず疲弊しているように感じられた。

OEJABの本部で、OEJAB発祥のルーツと現状についてお話を伺った。

OEJABはブルキナファソに深いルーツがあるが、地政学的状況から事業が発展できていないという事が新たな知見として得られた。本部には、友愛とOEJABの旗が置かれていた。OEJABの旗には、出身地や母国がどこである、人類は皆繋がりが合っているという相互扶助の意味が込められていた。

一枚目の写真は、OEJABの職業教育学校での疑似体験である。ここでは、ガラス製造、電気回路の整備、二輪車のメンテナンスなど様々な職業に特化した教育を受けることができる。ただの技術的な教育だけでなく、各分野で必要となる専門用語や専門知識



のインプット指導も行われていた。OEJABが求職者に差し伸べる仕組みが想像以上に整っており、日本にはここまでの扶助施設は存在しているのだろうかと思いを巡らせた。

そして国連ウィーン事務局とCTBTOも訪問した（写真二枚目）。ここでは世界中の核開発施設の状態監視を行っており、世界平和のための核実験禁止に向けた管轄がなされていた。しかし、大きな問題だと感じたことは、主要な核技術保有国のうち、インドや北朝鮮、パキスタンはCTBTに署名すらしていないという点である。如何にして、核開発を進める国々の条約加盟を促すかということ

が今後の課題であろう。そして最後に、渡航中に会った様々な人を紹介したい。

三枚目の写真はウィーン楽友協会でのコンサートチケットを売っていた人である。何人かそのような人を見かけたが、皆写真のような音楽家の格好をしている

モーツァルトの扮装で、笑顔で話しかけてくれる、実はコンサートチケットの販売員。ちょっと怪しんで買わなかったのが悔やまれる

た。何かのキャッチによる一種の詐欺と疑ってしまっている。OEJABや友愛が今までに築き上げてきた世界的ネットワークを活用しながら、その一メンバーとして今後も世界の繋がりを強固にできる人材になりたいと、改めて強く思った。

ところ変われば

東京大学四年 浦 彩人

「学生のうちに海外経験はしておくべき」という言葉をよく耳にする。

しかし、今の時代ネットや写真付きの書物があるのだからと、わざわざリアルな世界へ踏み出す意義を見いだせない人は多いだろう。

私もかつてはその一人に、私の後ろにいた彼に声をかけた。すると、彼は「オレも道が分からなくて、ちょうど助けを求めていた」と発言。すぐに意気投合し一緒にスロバキアを周遊することに、まさに相互扶助の場面であった。

OEJABの施設で開催されたBBQでの出会いも印象に残っている。

とても美味しいBBQで、日本から来たということ



場面は世界中どんな場所でもどんな時でも起こりうる。OEJABや友愛が今までに築き上げてきた世界的ネットワークを活用しながら、その一メンバーとして今後も世界の繋がりを強固にできる人材になりたいと、改めて強く思った。

本研修の中でOEJAB本部を訪れた際「SNSなどを通して友情が存在する現在、君に本当の友人はいるのか」と問われた。

その際に私は「友情はお互いに与え合った情報量の多さに応じて深まる。リアルと仮想とは与えられる情報の密度に違いがあり、リアルな情報量は仮想空間で得られる情報は追いつかないため、SNSなどはあくまで友情を始める接点である」という回答をした。

考えてみれば、情報量によって生じる理解度の差というのは友情のみに止まらず、日本とは異なる国における様々な生活の差に関しても言えるのだ。

我々は異国との差異で、エネルギーや文化などといった難しい内容を考えがちなが、もっと身近なところから顕著な違いが生じている。まず驚かされたのは鉄道の扉だろう。首都ウィーン

参加した結果、「リアルの経ウィーン市内を走る鉄道。写真では解りにくいドアは全て手動式である。隣国スロバキアでも、同様に手動式の扉であった



ンでさえ全ての車両は手動式であり降車の際にも自分で開ける必要があった（一枚目の写真）

交通も異なれば食事も異なる。日本人とは体格が異なるためか料理も日本のそれよりも大きく、味も日本のそれとは比べ物にならないほどに濃い。また日本ではスーパより少々割高なだけの自動販売機もオーストリアでは品目によってはスーパの二倍ほどしており余程困った場合にしか使わないものである。

インフラが違えば、法律も国によって異なる。有名なのはEU圏内ならパスポート無しで海外へ行けることだろう。これを利用して自由行動の日に私は隣国スロバキアを訪れたが、気付かぬうちに国境を超えていて新鮮な気持ちになったのを強く覚えていた。

また、観光名所にはスーベニアメダルの自動販売機が設置されており、これは日本にも見られるが、大きな特徴はメダル作成に実際の硬貨を用いていること



だ。日本では硬貨を独自に加工することは法律によって禁じられているため、この制作風景にはとても驚かされた。（前頁の写真）

また、日本では電動車を運転するには免許を取得する必要があるが、オーストリアではウィーン市内をはじめとして街の至る所に電動スクーターが放置されており、アプリさえ入れれば免許なしで誰でも運転することができ

首都ウィーンでは勿論道中訪れたザルツブルクでも観光客が騎乗できる馬車が準備されており、これは日本ではいうところの人力車に当たる（前頁の写真）

以上のような差異とは対照的に、OEJABが対処している社会問題は日本のそれと似通っている。

OEJABにより運営される老人ホームでは介護の担い手不足が深刻であるという旨の発言があり、また職業訓練学校では世間からの偏見により存在を隠している人も多いという情報もあった。

クーデンホッフ・ミツコさんのお墓にお参りました。日本からの墓参もあるそうです。ベルコピツチ会長が同行してくださいました



現在我々が抱える様々な社会問題は上記のような文化的な違いとは関係なく普遍的なものであると認識するに至り、それ故に我が財団の抱く理念である友愛は日本国内だけでなく世界に発信するに値する信条であるはずだ。

街に咲く花々

東北大学卒 計良 衛

今回のオーストリア研修では、普段の旅行では体験することの出来ない貴重な経験を数多く積むことが出来ました。その中でも印象的だった内容について、いくつか書きたいと思います。

オーストリアへ出発する三日前まで、山や森に囲まれた北海道の田舎でアルパイトをしていた私にとって、ウィーンの美しい街並みは別世界の様に映って見えました。歴史を感じさせる建築物や企業のオフィスが所狭しと建ち並ぶ一方で、街に点在する公園の花壇には色とりどりの花が植



えられていたり、飲食店のテラスには花の咲いた植木鉢が置かれていたりなど、人々の生活と自然との調和の取れた景観が印象的でした。

特に、ハプスブルク家の人々が暮らしていたシェーンブルーン宮殿と、宮殿の前に広がるお花畑の組み合わせは壮観でした。

ウィーン中心部から郊外に移動する際に車から見た畑の眺めは、向日葵や小麦、大豆など様々な農作物が比較的小さい区画で植えられており、様々な色が組み合わさってきれいでした。日本では単一色の畑や田がどこまでも続いている眺めを良く目にするだけに、これまで見たことのない眺めでした。



せました。現代に生きる私でさえ、オーストリアと日本との言語や文化の違いに苦勞することを考えると、日本では国際結婚が一般的ではなかった時代に、光子さんがオーストリアへ渡り生活されていたことは凄いことだと思いました。

同時に、海外に行く際に墓地を訪れることはあまりないため、海外の墓地の様式を見ることができたことも貴重な経験でした。日本では珍しい石棺があり、石棺の上に花が植えられているのが印象的でした。

エヤップの職業訓練学校では施設の見学に加えて、学生の実習内容を実際に体験したり、授業の様子を見学したりしました。職業訓練学校は、様々な事情で学校に通うことや、職業訓練を受ける事が難しい移民や難民、オーストリアの人々が学んでいました。

私たちは実習体験として、ガラスの切断と接着を行いました。実際に体験してみると、ガラスカッターでガラスを切ろうとしても思い通りの形に切ることは難しく、仕事とするにはしつかりとした技術の習得が必要だと感じました。施設では家具の製作や自転車の修理、座学として専門用語のドイツ語なども教えており、現場で即戦力として働くことのできる教育をしていることが分かりました。

施設の最上階は精神的な問題をはじめ、より困難を抱える学生向けの訓練施設となっており、カウンセラーなどと協力しながら丁寧な支援をしていました。学

生と直接話す機会はありませんでした。現代に生きる私でさえ、オーストリアと日本との言語や文化の違いに苦勞することを考えると、日本では国際結婚が一般的ではなかった時代に、光子さんがオーストリアへ渡り生活されていたことは凄いことだと思いました。

「研修プログラム」ではありませんが、国連からは近いドナウ公園で、チェスをするのができると聞き、皆でドナウタワーに上った後に一人で出向きました。

そこは参加者の殆どがお年寄り、通常のチェス盤や珍しい巨大なチェス盤を使用していました。私は小学生的の時に地元の公園でお年寄りに混じって将棋を指していました、その雰囲気に近いものを感じました。英語が全く通じなかったこともあり、当初はチェスをしたかったと頼んでも断られてばかりでしたが、最後

「早く行きたければ一人で行け、遠くへ行きたければみんなで行け」アフリカにはこんなことわざがあるそうです。国籍・人種・性別等に関わらず、全ての出会いを大切に、他者と繋ぐのが相手をしてくれることになりました。対局は、快勝でした（かなりのハンディを頂いたので）全く言語の通じない外国人とチェスをしてくれたその方には友愛を感じ、感謝の言葉と友愛の手ぬぐいを渡しました。

今回の研修では友愛の歴史について学んだり、エヤップの活動について知ることができたり、そして見知らぬ方と交流ができたりと非常に有意義な体験を重ねることができました。

また、街の様々な場所で咲く花々や、市場で見た珍しい野菜は、農業に取り組み私にとって非常に刺激的でした。この様な機会を提供してくださいました友愛

の皆様、そして受け入れ先のエヤップの皆様にご心から御礼申し上げます。

オーストリアが私に教えてくれたこと

東京女子大学卒 手塚七彩

全ての人と人との出会い・繋がりを大切に。今回の滞在を通じて一番印象に残った言葉です。エヤップ事務所を訪問した際、エヤップは一九六三年からブルキナファソの支援をしているとお話がありました。きっかけは、元会長が学生時代の頃、ブルキナファソからの留学生と宿舍が一緒だったこと。そんな人と人の小さな出会いが、六〇年以上続く組織と組織の強い繋がりととなり、大きな成果を生み出していることに感銘を受けました。

「早く行きたければ一人で行け、遠くへ行きたければみんなで行け」アフリカにはこんなことわざがあるそうです。国籍・人種・性別等に関わらず、全ての出会いを大切に、他者と繋ぐのが相手をしてくれることになりました。対局は、快勝でした（かなりのハンディを頂いたので）全く言語の通じない外国人とチェスをしてくれたその方には友愛を感じ、感謝の言葉と友愛の手ぬぐいを渡しました。

今回の研修では友愛の歴史について学んだり、エヤップの活動について知ることができたり、そして見知らぬ方と交流ができたりと非常に有意義な体験を重ねることができました。

また、街の様々な場所で咲く花々や、市場で見た珍しい野菜は、農業に取り組み私にとって非常に刺激的でした。この様な機会を提供してくださいました友愛



がり、巻き込むことが大きな成果を導く。正に、ことわざを体現したようなストーリーを聞くことができ、その重要性を改めて感じました。

当時の元会長は、ブルキナファソを支援したいという想いで留学生と関わっていたのではなく、一人のクラスメイト・友人として彼と様々な時間を共有したのだと思います。それが、年月を経てエヤップとブルキナファソの強力な絆へと成長しました。何気ない出会いを大切に、国籍・人種・性別等の壁を越えて、誰に対しても誠実な気持ち、優しい気持ちで接する。その小さな積み重ねが大きな成果となったのです。我々は大きな成果に重点を置きがちですが、小さな積み重ねこそが友愛の本質なのではないでしょうか。

とはいっても、日々の生活に忙殺されていると、他者への誠実さ、優しさを持つ余裕がなくなってしまうことがあります。暗いニュースに気分が落ち込み、自

美味しいお肉を一杯食べて、超満足げな一行とニック（右側奥）ニックには本当にお世話になりました。来日の折には恩返しします



分は無力だと虚無感を感じてしまうこともあります。そんな時には、オーストリアで出会った美しい景色と親切な人々を思い出しながら、他者との出会い・繋がりを大切に出来る温かみのある人間を目指したいと思います。

エヤップ派遣に応募したのは大学四年生の時。当時の私は、友愛とは、支援や手助けなど何か大きなものを与えること、そう考えていました。派遣の延期が続き、今では社会人二年目です。時を経たからこそ、今回、友愛とは、何か大きなことを成し遂げるだけでなく、その過程となる一つ一つの小さな出会い・繋がりを大切にする気持ち、すなわち他者への誠実さ・優しさの積み重ねなのだと新たな気付きを得ることが出来たのだと思います。仕事の都合で限られた日程での参加となりましたが、学生の時とはまた別の角度から友愛について考えることが出来ました。

最後になりますが、このOEJAB創設家のお墓にお参りさせていただきました。日本のお墓のイメージとはかけ離れています。立派な一軒の家のようです





シュテファン大聖堂。写真では伝え切れない程大きいです。造りも独特で、ウィーン訪問の際には是非訪ねることをお勧めします（HPの写真も是非！）

ような貴重な機会を頂きありがとうございました。新型コロナウイルスの影響が未だ残っている中で、これまでの派遣以上に気を遣うことが多かったと思います。そのような状況下でも、私たちの機会を奪うまいと試行錯誤し、快く送り出してくださった友愛関係者の皆様、途中参加にも関わらず温かく迎え入れ、一緒に訪問してくれた派遣団のみんな、マイペースすぎる私たちを親切にアテンドしてくれたニック、多くの人に感謝したいと思います。

初めての欧州、初めてオーストリア

東北大学卒 鈴木健太

待ちに待った友愛のOEJAB派遣事業（私自身の参加は九月六日から十三日の八日間）が実施され、難民受け入れ施設の見学やOEJAB本部訪問・交流等非常に貴重で、かけがえない体験を味わうことができました。

そんな体験をさせていただいた友愛やエヤップなど関わった方々全てに感謝申し上げます。

本レポートではそのなかでも特に印象に残った出来

事を二つ紹介していきます。

まず一つ目は、難民や移民の学生たちも私たちと同様に勉強し、遊び、喜怒哀楽を表し、日々を生きているということ。

日本で生活をしていて私は未だ難民と出会った経験がありませんでした。今回が初めての出会い、そしてお話しする機会でもありました。そこで思ったことは、「生きるために仕事に就く」という意識が日本人よりも強いのではないかと思います。

もう一つは、難民受け入れに関する議論の活性化を目指すべきであると痛感しました。同時に、日本でもこういった議論の活性化を目指すべきであると感じました。

日本の難民支援は金銭や物資供給の側面では協力的になつてきていますが、相変わらず難民受け入れに関しては消極的です。ロシアとウクライナのニュース報道は頻繁に取り上げられていますが、難民についてどうこうというニュースはほとんど目にしません。

日本は安全な国とPRしているものの、法制度等の諸課題によりまだまだ難民受け入れ実績が乏しい状況です。オーストリアのようにローカルコミュニティレ

ベルで興味・関心を持つてもらうためには、こういった現状を知っている者が積極的に発信して呼び掛けていくしかないと思います。昨今SNS等様々な情報

二つ目は、難民受け入れについての議論や話題が、政府やエヤップ等の専門機関だけでなく、市民団体、ローカルコミュニティでも

盛んに交わされていることに驚きました。

メドリング市長との会談等を通じて、地域全体で難民への取組を考え、実行している様子を肌で感じました。同時に、日本でもこ

うした発信をする役割を今回渡航した私たちが担い、身近なコミュニティから広めていきたいと思いま

ウィーンは街全体が世界遺産というだけあって、その有様は、言葉に尽くせません。目に入る景色全て鮮明に覚えていきます。帰国した今では「もう一度行きたい国No.1」です。

今回の研修では友愛の歴史、エヤップの活動内容等について詳しく学ぶことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。また、文化観光もでき

このような機会を提供してくださった友愛の皆様及び、受け入れてくださったエヤップや多くの関係者の皆様に重ねて厚く御礼申し上げます。本当にありが

これまでお世話になったニックと、帰国の日一枚。ニック本当にありがとう！（ニックの写真は派遣員全員撮影していました。是非HPで見てください！）



に触れる機会が多いメリットを生かし、弱い紐帯を糾う如く、一人一人の想いを集結した力を発揮していければ世論を動かすきっかけになるでしょう。

そうした発信をする役割を今回渡航した私たちが担い、身近なコミュニティから広めていきたいと思いま

ウィーンは街全体が世界遺産というだけあって、その有様は、言葉に尽くせません。目に入る景色全て鮮明に覚えていきます。帰国した今では「もう一度行きたい国No.1」です。

今回の研修では友愛の歴史、エヤップの活動内容等について詳しく学ぶことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。また、文化観光もでき

このような機会を提供してくださった友愛の皆様及び、受け入れてくださったエヤップや多くの関係者の皆様に重ねて厚く御礼申し上げます。本当にありが

これまでお世話になったニックと、帰国の日一枚。ニック本当にありがとう！（ニックの写真は派遣員全員撮影していました。是非HPで見てください！）



留学日記・私の見たヨーロッパの現状

森崎桃子（後編）

友愛ユニオンメンバー／二〇一九年度派遣員

大統領選と政治参加

フランス人は政治や哲学を語るのが好き、そう思っています。私はフランスに渡航しました。そして実際に大統領選について雄弁に語る友人に出会いました。彼女になぜそんなに関心を持っていたのかを聞くと、「私の家ではニュースを見ながらよく家族で政治の話をしていたし、高校生の時から日常的にクラスメイトと議論してきたからだと思う」と答えてくれました。彼女は、強い政治的意見の持ち主で二回目の投票において（フランスの大統領選は一回目の投票で過半数を占める候補がいらない場合には上位二名の一騎打ちとなる二回目の投票が行われます）、マクロン氏もルペン氏も自身の思想に合わない白紙投票をしたそうです。一方、ジャーナリストを目指す友人は、フランスの若者の政治への意識に危機感を持っています。「今の若い人は昔より政治に関心が薄いから、関心を持つてもらえるような記事を書きたい」。彼女はそう語りました。また彼女は「二回目の候補の二人と思想は合わないが、現在の制度では白紙投票をする政治的意思としてみなして貰えないからこそ、どちらかに投票しよう、と周りに呼びかけた」と教えてくれました。

そして大統領制自体に疑問を呈する意見もある、と

ヨーロッパの歴史について教養程度には知っている中で、そもそも習わないと言う事に、それだけ注目度や興味がないのか、と少し悲しくなりました。

また、人権の授業で国際人権法について学ぶ中で、「現在の法枠組みは欧米の一部の国がアジアや他の地域を除外して作ってきたものであり、もっと様々な文化を反映したユニバーサルなものになるべきではないか」と言う批判を取り扱っていました。その授業の討論の中では、これ以上多様なものを取り入れると統一性がなくなる為、現状を維持するべきだ、と言う意見も聞きました。また、アジアに関する議論もアジアンデ

イベントとまとめて触れて終わってしまい、アジアの中にある多様な考えや文化が看過されて話が進んでしまいう事に大きな危機感を覚えました。

日本に比べると、韓国、中国、ベトナム、タイ、インドネシアなどそれぞれの国が違文化や歴史を持ちな

フランス人の友人と台湾人の友人とみんなではしゃぎながら撮影。中央の女性のリヨンにある家に、三人で泊ってもらいました



から構成されている事は歴史でも学びますし、感覚としても実感がありません。しかし、アジアの歴史を学ぶ機会がなく、さらに距離的にも遠くに位置している欧州の人にとっては、その違いを理解する事はあまりないのだと実感しました。（勿論、個人的に興味があつて学んでいらっしゃる方もいました）その分、自国や自分の地域について知らない相手の発言や話し方に、密かに傷つく機会も多くありました。

外交関係を持つ際、ビジネスで取引をする際、友人として交流する際、相手の国や地域について知識を持たないことは、相手の事を傷つけてしまったり、誤解を生んでしまったりする大きな原因になると、身をもって実感したからこそ、自分自身は知る努力を怠らずに続けて行きたいと思いました。

前編は前号（五七八号）

◆今月号は私からの話題はありません。OEJAB派遣員の報告は、個性溢れて読み応えがあり、小さな話題は霞んでしまいます。十人十色とは良く言ったもので、各人各様の報告に、執筆者ご本人の笑顔が重なって、編集作業は楽しいものでした。世界に飛び出す若者たち、これからも沢山の派遣員を送って、沢山の報告を聞きたいものです。次の派遣は来年三月、それも大勢。楽しみです。（も）



派遣日記